



船商削弓 だより

第50号 平成13年7月

弓削商船高等専門学校

〒794 - 2593 愛媛県越智郡弓削町下弓削1000

TEL 0897 - 77 - 4620 FAX 0897 - 77 - 4693

ホームページアドレス <http://www.yuge.ac.jp/>



電子機械工学科・情報工学科卒業式



入学生オリエンテーション

目 次

創基百周年を迎えて.....	1
新年度の抱負.....	2
電子機械工学科・情報工学科卒業式.....	5
入学式.....	6
入学生の抱負.....	7
クラブ活動状況.....	9

前期級長・副級長.....	10
資格試験等合格者.....	10
キャンパスクリーン.....	11
新任教官紹介.....	12
新留学生紹介.....	12
創基百周年記念行事.....	13

創基百周年を迎えて

校長 森田 駿 樹

新しい世紀の幕開けと同時に、本校は、明治34年(1902)1月11日、愛媛県越智郡弓削村外1ヶ村組合立弓削海員学校として呱呱の声をあげてから、満100年という記念すべき大きな節目の年を迎えました。



海に囲まれた弓削島の人々は、伝統的に海、船に親しみ、村民の多くがこの頃飛躍的な発展を遂げていた海運界へ進出されていました。弓削海員学校は、このような情勢を敏感に察知した当時の村長中村清二郎氏を初めとする村民有志並びに郷土出身の実業家田坂初太郎氏らの、島の発展にはこの地に船員教育の拠点を設けることが不可欠である、との強い信念と献身的なご努力によって誕生しました。

以来、時代の変遷とともに、所管は、愛媛県、国へと移り、校名もまた、明治35年には弓削甲種商船学校、明治41年には弓削商船学校、さらに、昭和26年には学制改革により弓削商船高等学校と改称されました。なお、この間、昭和5年には機関科が設置されました。

そして、昭和42年、地元自治体及び5商船高等学校同窓会を中心とする関係諸団体等々の熱心な昇格運動が功を奏して、弓削商船高等専門学校が誕生しました。その直後、海運界からの強い要請を受けて、昭和44年には機関学科1学級が増設されましたが、間もなく訪れた海運界の不況による影響を受けて、昭和60年及び同63年には大幅な学科改組を行い、従来の航海学科、機関学科(2学級)から、現在の商船学科、電子機械工学科、情報工学科の3学科体制となり、今日に至っております。

本校100年の歴史の中から、校名変更等主要な

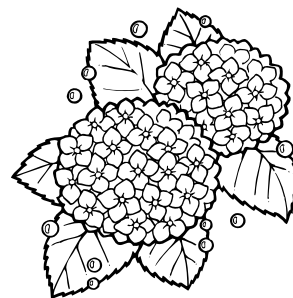
項目のみを抜き書きすると上記の通りですが、この間、大きな戦争あるいは経済情勢の変動に伴う海運界の盛衰など、学校の存亡を左右するような様々な難事に遭遇しました。

その度毎に、先達は、文字通り寝食を忘れて難関に立ち向かい、危機を乗り越えて来られましたが、その大きな支えとなったのは、言うまでもなく各界における本校卒業生の活躍であり、また、弓削町を初めとする地域社会の方々等からの力強いご支援でありました。

創立以来6千名に及ぶ卒業生は、過日の卒業生による記念講演会あるいは特別講義でもその一端を垣間見られたように、海運及び海運関連産業界のみならず一般産業界からもその実力が認められ、高い評価を受けて来られました。このような卒業生の活躍があってこそその学校であり、これが幾多の危機を突破する原動力になりました。

この記念すべき100周年を迎えて、様々な記念事業・行事を実施することになりましたが、その大部分は、直接的あるいは間接的に同窓各位のご功績を讃え、地域社会に対する感謝の意を込めたものであります。

学生の皆さんは、本意をすでに敏感に悟って戴いたことと思います。先輩諸氏の活躍に負けず劣らず、これを越える意気込みを持って日々努力を重ね、母校弓削商船100年の歴史と伝統を守るとともに新たな足跡を残し、合わせて、皆さんを育ててくれた地域社会の発展に大いに貢献されるようお願い致します。



新年度の抱負

教務主事 小 川 量 也

21世紀の新たな時代を迎えました。そしてこの世紀は教育改革の年とも言われています。高度情報化・国際化社会がますます進展する中で、高専は、きわめて重要な役割を担うものと予想されます。



本校は、豊かな人間性と国際感覚を有し、基礎学力がしっかりしており、かつ応用力を有する創造性豊かな専門技術者の育成を行うことが教育目標となっています。新世紀の荒波の中に、焦らず着実に、“弓削商船”丸の新たな船出をしていきたいと考えております。

本年度の大きな教務関係目標として、次のような項目を掲げています。①基礎学力の向上、②勉強環境の整備、③国際交流活動の推進です。

基礎学力を身につけることは、将来技術者として活躍するために必須の創造性を培う礎となるものです。こつこつと勉強し着実に自分のものとして下さい。学んだ後はぜひ身近なものに応用し、創造（Creation）することにつとめて欲しいと思います。

次に、きれいな環境づくりは、勉学を始める基盤となるものです。この1年、「4S運動」を展開していきます。4Sとは、「整理・整頓・清潔・清掃」の意です。当面は構内、教室を対象としておりますが、行く行くは心身面にも展開していけたらと思います。

本校には現在留学生が6ヶ国9名います。日本で勉強した成果を将来母国の発展のために役立てるべく一生懸命頑張っています。これからは、日本人も広く外国の文化・社会に接し、かつ理解できる国際人としての活躍が要求されています。5月の国際親善訪問で韓国海洋大学校と行う学生交流は、きわめて意義深いものとなるでしょう。

「千里の道も一歩より」、「学問に王道なし」

悔いのない学園生活を送りましょう！

学生主事 村 上 健 二

21世紀の最初の年の今年、
新入生128名、4年生への編入生6名、留学生1名、合計135名が入学してきました。昨年までは、寮務主事をしていたのですが、違った面での苦労が押し寄せてきている今日このごろです。主事補とし



て、商船学科で二村、秋葉両先生、電子機械学科で藤本先生、情報学科で長尾、藤井両先生、総合学科で横田、岩本両先生の合計7名の力強い協力を得てがんばっています。

まず、スローガンとして、「開かれた明るい環境を目指して」をあげました。「開かれた」というのは、学生会と共に話し合い、行動を一緒にしていくことです。「明るい」というのは、一つには、挨拶を学生間だけでなく、教職員や外部の人に対してもしていくことを奨励します。朝には、「おはようございます」、昼には、「こんにちは」、帰る時には、「さようなら」夕方には、「こんばんは」、と言える人間になって欲しいです。もう一つは、校内美化に取り組むことを意味します。教室、廊下、校庭などにゴミやガムを落とさない、また落ちていれば拾うという優しい心を持って欲しいのです。

指導方法としては、1年生から3年生までは、高校生と同じで、制服を着用。茶髪やピアスにも注意しましょう。基本的な生活習慣をぜひ身につけましょう。4年生と5年生は、何とも自主的に判断し、責任感のある行動をしましょう。下級生から尊敬される人間になりましょう。全学生に対して、暴力やいじめ行為、窃盗行為、公共物を故意に破損する行為などを除いて、指導報告カードを利用して、できるだけ注意し、指導していきたいと思います。それに答える人間になって下さい。期待しています。

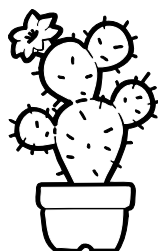
4月から新しい年度が始まりました。学校というところは、年度が変わるたびに学生および教職員の出入りがあり、新たな気分に含まれます。私も本校に勤務して20年以上が経ちましたが、新入生との出会いには毎年、新鮮な気持ちを覚えています。その上、今年度から寮務主事を務めることになり、別の緊張感を感じています。9名の寮務主事補の先生方に補佐して頂きながら、学寮の向上のために務めて行こうと決意を新たにしています。



今年度の新入寮生は、1年生男子56名、1年生女子12名、3年次の編入留学生1名、4年次の編入生6名の計75名です。在寮生を併せると総勢230名になります。近年、本校の入寮者は増加傾向にあります。複数の高専の学寮を見学した中学生が、本校を受験し入学することもあり、外部からの学寮評価の表れであると有り難く思っています。改修以前には老朽化した施設であったことを考えると、本校にとっては喜ばしい現象ですが、このペースで寮生が増加するといずれ居室を増設する必要が生じています。

ほとんどの新入寮生にとって、寮生活は初めての経験であろうと思います。最初は慣れないことも多いでしょうが、寝食を共にする集団生活を通して、きちんとした挨拶や時間厳守、円滑な人間関係を築くためのマナーなどを自分自身の内面からしっかり身につけてもらいたいと考えています。

高学年生は、自主的、主体的に寮生活を送り、人間的に成長し、寮生会を中心にして学寮の質的向上にも貢献してください。いずれにしても、寮生諸君には、21世紀を担う若者らしく前向きに行動できる人間に成長してもらいたいと願っています。



今年は創基100周年の記念すべき行事が目白押しに並んでいます。この長い歴史の意味を十分にかみ締め、商船学科の方向をしっかりと見つめ直し、より発展する方向に努力をしていかなければなりません。



まず、学生に教育する方針としては、どのような状況に際しても動じないだけの基本的な学力、行動力、判断力を持たせることです。これを養うためにはわれわれ教官が毅然とした態度でまた思いやりのある気持ちを学生に持ち、お互いに信頼し合える関係を築く必要があります。

教授方法も工夫を凝らし改善し、身につく方法を模索しながら発展させなければなりません。

多様な考え方をを持った学生が在籍しています。教官方が懸命に努力している様子を学生が見ているうちに学生もその中から大事なことを学び取ることと思います。

就職については、海上関係は厳しい状況が続いています。この中でも学生の懸命な努力により大手海運会社に毎年1～2名入社しています。陸上関係では造船所や機械関係のサービスエンジニアの求人が多く、100%の就職率です。学校での勉強及び航海訓練所での航海実習を通して学生が獲得した自信を会社が評価してくれたものだと思います。

高等専門学校のあり方が大きく変わろうとしている現状ですが、学科としての特徴をより鮮明にし、学生、保護者、地域の人々及び企業等に訴えるものを持つようにしなければなりません。

困難な時代ですが、商船学科全体をより活力あるものにするため努力していくつもりです。

学科長を1年間務めて、いろいろと勉強させて頂いた。学校行事や各種委員会審議に参加することにより、学校の実情や今後の課題を理解できただけでなく、学校運営に多くの人々がそれぞれの役割分担で関わりを持ち、協力し合うことによってスムーズに組織が動いていることも再認識することができた。意見として述べるべき時はキ



ッチリ述べるにしても、個人としても学科としても協調性を持った節度ある行動が必要であると感じている。学生指導で協調性や節度のある行動などに触れて話す機会があるが、これらのことの大切さを私自身が改めて教えられた気がする。

さて高等教育において、今多くの問題が生じている。その中でも学科として取り組むべきことは、FD（教授能力の向上推進）の問題、JABEE（日本技術者教育認定機構）の発足による国際的に通用する技術の育成と資格認証に向けての取り組みの問題、TLO（技術移転機関）を支援して産学間の連携を促進する動きへの対応の問題などがある。これに専攻科の問題も加わってくる。高等教育機関で実施されている技術者教育が、社会の要求水準を満たしているかどうかを外部機関が評価することになり、そのための教育プログラムの見直しが必要となってきた。一方では、成績不良者に対する補講の問題、追認試験への取り組みの問題などがある。教育環境が大きく変化している中で、その変化に対応できる教育システム作りと、個人の教授法の見直し・改善が必要となってきた。一教官としての精進はもちろん学科長として、学科の意見をとりまとめよりよい教育を目指し、その役割を果たせるよう努力していきたいと考えている。

情報工学科長 田 原 正 信

本年は、本校の創立100周年の年です。そこで、記念事業の一環として、100周年記念誌を発行することとなり、学科長として、「情報工学科のあゆみ」と題して情報工学科のこれまでの歴史を書く事になりました。思い返してみますと、一番最初に情報工学科に移籍し、カリキュラムの策定や、1期生の担任、情報工学科棟の大まかな設計など、学科設立当初から深く情報工学科に関わってきました。当時の資料を読み返してみると、些か感慨深いものがありました。翻って現在の学科の状況を考えますと当時とは何か違うように感じます。率直に言えば、学生に活気が無くなった事です。12年前の学科設立当初は学生にとって、情報処理という何か目新しく魅力的な気がしたのではないかと思います。しかし、今、ITは必須の技術となっています。世界中がIT無しには進まない状況です。できて当たり前、何かこのあたりに、今の情報工学科の学生の無力感があるのではないかなと言う気がします。我々教官の方



にも似たような状況がありはしないかと考え直す今日この頃です。

総合教育科長 亀 山 和 磨

私はNHKのテレビ番組『プロジェクトX』をみていつも大変感動しております。正確な情報の把握、幅広い思考力、適確な判断力、新しいものを生み出す創造力、実行する決断と勇氣、そして深い人間の絆等々21世紀への提言として受け止めております。ものづくりを目指す学生諸君はどのように受け止めているでしょうか。



文部科学省は個性重視、ゆとり教育、生涯学習を前面に打ち出し、高専にはスピーディに進展していく高度情報化、国際化に直ちに適応できる人材の育成を求めています。即ち、学生には専門的な知識・技能の修得が、教官には内容の深い魅力ある授業が求められているのです。

本校の実情を見てみますと、低学年生においては同年齢の高校生と比べて家庭学習の時間が随分少ないようです。このことは、多くの学生が自主・自立に甘んじて生活している結果ではないかと危惧しております。

個性も生涯学習もゆとりある生活もすべて自らが主体的に強い自己指導力をもち、自らに厳しい試練の中で培われていくものだと思います。物の豊かな時代に主体的に生きるためには勤勉性と忍耐力が必要です。勉強とは古来から決して面白いものばかりではなく、苦しくても強いて勉めなくてはならないものです。

総合教育科では、一般科目をとおして基礎・基本を着実に身に付けさせスムーズに専門科目の学習へ進展していけるように指導内容・指導方法を工夫し、研究しております。一昨年度は総合教育科の全教官に「授業研究」として教官相互の参観授業を実施しました。そして昨年度から2年計画で、テーマを明確にする指導案をつくり「研究授業」で授業を公開し、他者から意見を聞き互いに力量を高めていきたいと研修に取り組んでいます。

今年度は「開かれた学校づくり」という努力目標が掲げられました。校内はきれいだし、挨拶にも生気がみなぎり、学生諸君の積極的な生活態度には目をみはるものがあります。このような環境にこそすばらしい技術者が生まれるものと確信しています。「開かれた学校づくり」を目指して私達も率先垂範したいと思います。学生諸君のさらなる活躍を期待します。

学生会長に就任してから数ヶ月。忙しいけど、学生会役員11人で楽しく過ごしています。



私が学生会長に立候補した理由は、正直言ってこの学校に飽きていたからです。飽きたと言って学校を改革しようとは思ってません。ただ自分自身が変わりたいからです。皆さんも、知ってのとおり、本校は5年制で5年間も同じ面子で過ごします。カップルでいえば倦怠期みたいな時期が訪れます。私は、ちょうどその時期だったので、新しい自分を見つけるために立候補しました。たぶん、他の学生会役員も私と一緒にしたいと思います。

さて、私から皆さんにお願いが一つあります。主張をしっかりと欲しいことです。本校の学生は一部の人々が主張し、残りは何もしなくて、ただ流されるだけの人が多いです。やはり自分のことなので、できるだけ自己主張し、学生生活を濃くして欲しいです。

最後に、私の今年の目標は、学生会の存在感をもっと出していくことです。ほとんどの人は、学生会は何をやっているのかわからないと思います。今年は100周年で行事が多くあるので、学生会の存在感を出すチャンスです。皆さんの中で濃く根強く存在できるように頑張ります。それでは皆さん1年間ごきげんよう!!

平成13年 学生会役員

会 長	商 船 学 科	4 年	村 上 伸一
副 会 長	商 船 学 科	4 年	松本 大輔
"	情 報 工 学 科	4 年	宮市 友紀
書 記 長	商 船 学 科	3 年	中山 真澄
書 記	商 船 学 科	3 年	村 上 和也
"	情 報 工 学 科	3 年	村 上 理沙
会 計 長	電子機械工学科	4 年	古本 悠一
会 計	商 船 学 科	3 年	大鼻 洋平
"	商 船 学 科	2 年	大畑 安司
会計監査長	商 船 学 科	4 年	川原 義裕
会計監査	情 報 工 学 科	3 年	白石 秀忠
体育局長	商 船 学 科	4 年	山岸 悠樹
文化局長	商 船 学 科	4 年	浜咲 昭雄

電子機械工学科・情報工学科卒業式

3月6日(火)午前10時20分から第二体育館において、来賓24名を迎え、平成12年度電子機械工学科・情報工学科卒業式が挙行され、引続き第一体育館において、卒業生、来賓及び教職員が出席し、祝賀会が行われました。



平成12年度 電子機械工学科・情報工学科受賞者

	電子機械工学科	情 報 工 学 科
特別精励賞	田内 孝典 濱口 高 村上 太郎	山本 稔
精 励 賞	青木 潔 井川 暁嗣 池田 洋 石川 優 大西 毅 岡本 知之 木村 茂史 村上 慶彦 矢野 教彦	時本 永吉
体育功労賞	濱口 高(陸上部) 田内 孝典(陸上部) 越智 弘光(陸上部) 片山 朗(ソフトテニス部) 近藤 慎也(卓球部) 森田 善仁(剣道部)	田市 真(陸上部) 村上 豊(陸上部) 安部 和也(テニス部)
文化功労賞	池田 洋 (ロボット製作部) 村上 太郎(無線部)	黒瀬 真理(美術部) 柏原 宏美(美術部) 原田由希子(写真部) 土井 英人(プログラミングコンテスト) 山本 稔(プログラミングコンテスト) 吉田 修一(プログラミングコンテスト) 矢原 聡子(プログラミングコンテスト) 村上 豊(ロボットコンテスト)
日本船用機関学会優秀学生奨励賞「山下勇賞」		時本 永吉
電気学会・電子情報通信学会・情報処理学会四国支部奨励賞	ミヤグマルスレン バツテンベレル	星 真知子
軽金属学会中国四国支部奨励賞	田内 孝典	

弓削商船を卒業して

M5卒業 左 高 晴 樹

今年の3月に電子機械工学科を卒業し、横浜電工(株)に就職しました。進路としては、大学に進む道と就職する道がありましたが、さらに勉強を続けるよりも、はやく社会人として一人立ちしたいと考え、就職の道を選びました。在学中にはたくさんの事を学びましたが、こんな知識は習っても使わないだろうと、その時は思っていました。でも、いざ就職してみるとそれが必要であったり、習っていないこと等もたくさんありました。就職してからの方が、学生時代よりも勉強している様な気がします。



入社してまだ1ヶ月ですが、仕事だけでなく、最初は生活の面でもいろいろと大変でした。一人暮らしを始め、就職先での生活にも最近になりようやく慣れてきました。仕事の面では研修期間も終わり、現場に出ることが多くなってきました。様々な工具を使って作業を行うので、その工具の名前を覚えたり、使用方法の説明を聞いたりしながら仕事をしています。こうして実際の仕事現場に出てみて、どんなことでもいいので、わからないことは友達や先輩、教官等に聞くようにし方がよいと実感しています。わからないままだともっとわからなくなり、次第に嫌気がさしてくると思います。それは仕事にも授業にも言えると思います。

最後になりますが、在学中のみなさんは、学校での授業にしろ、今後の進路やその後の人生にしろ、いろいろ悩みながら選択、決断をしないといけません。自分自身で決断して、悔いのないように前向きに頑張ってください。また、自分で決断したことは最後まであきらめずチャレンジして欲しいと思います。

入 学 式

4月10日(火)午前10時から第二体育館において、来賓13名を迎え、平成13年度入学式が挙行されました。



平成13年度入学選抜試験状況

[推薦によるもの]

検査日 平成13年1月28日(日)午前10時30分～
試験地 本校

[学力によるもの]

検査日 平成13年2月18日(日)午前10時40分～
試験地 本校のほか松山市、今治市、高松市、大阪市、福山市及び福岡市において行われました。

学科名	入学 定員	志願 者数	志願 倍率	受験 者数	受験 倍率	合格 者数	入 学 者 数		
							学力	推薦	計
商船 学科	名 40	名 52 (7)	倍 1.3	名 51 (7)	倍 1.3	名 41 (6)	名 29 (6)	名 9 (0)	名 38 (6)
電子機械 工学科	40	73 (4)	1.8	72 (4)	1.8	54 (4)	29 (1)	15 (2)	44 (3)
情 報 工学科	40	102 (38)	2.6	99 (36)	2.5	82 (29)	31 (12)	15 (9)	46 (21)
計	120	227 (49)	1.9	222 (47)	1.9	177 (39)	89 (19)	39 (11)	128 (30)

() 書は女子で内数

祝 辞

弓削商船高等専門学校
後援会会長

宮 川 阪 光

新入生の皆さん入学おめでとうございます。

歴史と伝統を誇る弓削商船高等専門学校に、めでたく入学された皆さんに、本校の後援会を代表して一言お祝を申し上げます。

今、皆さんの心中は、新たな希望と多少の不安を胸に、今日の入学の日を迎えられたことと思います。また、今年2001年という21世紀の記念すべきスタートの年でもあります。このような時に入学を迎えることができるのは、皆さんにとって大変意義のあることだと思います。

本校があるこの弓削町には、お金を出して遊ぶようなところはありませんが、豊かな自然と温かい人情があります。そして、皆さんのいづれ母校となるこの学校には、情熱を持った沢山の教官や事務官が揃っております。そして、何より教育施設が十分整備されておりますので、勉強やスポーツをするには大変すばらしい環境が整っております。

どうか皆さん一人ひとりが、国立弓削商船高等専門学校の学生であることに誇りを持ち、今日からの5年間で、更に自分自身に磨きをかけ、来たるべき将来の荒波を乗り切るための学力と体力、そして精神力を養って頂きたいと思います。

これからの皆さんに、お願いしたいのは、しっかりと自分の目標を持って、充実した学生生活を過ごして頂きたいということです。

また、本校でのこれからの5年間は、皆さんにとって、人間形成の面においても大変重要な時期でもあります。長い人生の中で、高専での友人関係というのは、特別の意味を持つものであります。色々な面で心の支えとなってくれるのはこの時期の仲間なのです。ここで出会った縁を大切に、友達を沢山作って欲しいと思います。

どうか、伝統ある本校の多くの先輩方と同様、皆さんも若さと情熱をもって、何事にも恐れずにチャレンジしていただきたい。そして、その中から多くのことをしっかりとつかみ取って頂きたいと思います。

最後に、保護者の皆様、本日はお子様のご入学誠におめでとうございます。心からお祝を申し上げますとともに、新入生の皆さんの一層の飛躍とご健康を願い、入学にあたってのお祝いの言葉といたします。

平成13年4月10日



入学生を抱負

S1 木 村 竜 馬

私には、大きな2つの将来の夢があります。一つは外国航路を走る大きな客船の船長になることです。そしてもう一つは海上保安庁に入り、巡視船で海を守る仕事に就くことです。だから私は中学の頃、自分の進路を考えていた時、何の迷いもなくこの弓削商船を選びました。そして、これからの5年間で大きく自分を向上、成長させ、将来の夢に近づきたいと思っています。

もちろん、ただ単にこの学校に通っているだけでは、何の進歩にもならないと思います。だから、日々の授業に熱心にくらいつき、資格や専門技術を進んで取得していこうと思います。

「日進月歩」これは私の永遠の課題です。日々の努力を絶えまなく続けることは、自分自身の大きな飛躍につながると思うからです。そして、自分の努力の結果が出れば、その喜びははかり知れない大きなものになると思うからです。

5年間という長い時間をどう使うかはその人次第ですが、遊んでいられるほど、この学校は甘くはありません。自分の意志をしっかり固めておかないと、留年や退学などといった厳しい結果が待っています。留年や退学をしないために、自分を成長させるためにもこの5年間で本当に無駄にしてはいけなと思います。

そして、今スタートした高専生活を有意義なものにしていくために、毎日の生活から変えていこうと思います。寮の中ではあいさつを欠かさず、先輩に対しては常に敬語を使い、船舶職員としての礼儀を身につけていきたいと思います。そして、これから5年間で共にするであろう仲間と仲良くし、苦しい時は助け合い、お互いを信頼できるようにしていこうと思います。

そして5年後この学校を卒業する時、弓削商船にいてよかった。と言えるように、毎日を充実させていきたいです。これから続く長く厳しい道のり、それはきっと無駄にはならないと思います。この学校で頑張って絶対立派な大人になる、そう自分を元気づけ、あきらめず努力して頑張ろうと思います。

部活動も、カッター部で5年間「全国制覇」を何度もできるように強くなりたいです。毎日のきつい練習も試合で優勝できると思えばつらさなんかふきとんでしまおうと思います。

何事も毎日の練習や努力などの積重ねで自分が成長していくのだと思います。

5年間、長いけれど頑張るぞ！



M1 石 井 良 一

今の高専生活での目標は4つあります。

一つ目の目標は、授業をまじめに受けることです。これは、当たり前なのですが、ときどき出来ないことがありました。だから、教官の話をよく聞き、黒板に書いていることは、ノートにしっかりまとめ、授業中には、私語をしないようにします。それから、あたえられた課題は、きちんとやっておき、提出物は、決められた期限までには必ず出します。そして、授業料免除になるようにがんばって、親を少しは楽にしたいと思っています。

二つ目の目標は、良い友達をたくさんつくることです。この学校に入ったときは、知らない人ばかりだったので、速く、仲の良い友達をつくりたいと思います。そして、お互いに助け合い、たのしく5年間を過ごせたらいいと思います。

三つ目の目標は、いろいろな資格を取りたいと思います。この学校では、いろいろな資格が取れると、先輩たちに聞いていました。だから、いろいろな資格試験にチャレンジしてみたいと思います。

四つ目の目標は、専門的な知識や技術をしっかりと身につけたいと思います。この学校は、高等専門学校だから、週に何回か、専門的な勉強や実習があります。専門的な知識や技術を身につけるには、まず、基礎がしっかりしていなければいけません。そのためには、一般科目の勉強をしっかりとします。そして、工作実習では、教官の話や注意をよく聞き、積極的に実習を行っていききたいと思います。そして、1時間、1時間を大切にしていきたいと思っています。

それから、ロボットコンテストにもでたいと思っています。去年の全国高専ロボコン大会を見て、自分でも、あんなロボットをつくってロボコンに出たいなと思いました。

このような目標を持って、これからの高専生活を楽しく過ごしていきたいと思っています。それから、勉強も部活もしっかりがんばっていかうと思っています。



I1 矢 野 沙 季

入学してもう2週間になって、授業のペース、友人関係、マネージャーの仕事にもだいぶ慣れてきました。しかし、次第に気持ち的にしんどいとも感じられるようにもなりました。高校と違い5年間という長い年月を寮生活のきまり、学校のきまりを守りながら生活していくことにプレッシャーを感じたりもしています。

でも逆に、5年間も今の友人達と過ごす事への喜びや楽しみも感じられるようにもなりました。だから今はいろいろな事に一生懸命に取り込



んで頑張っていきたいと思っています。

まず一つは友人関係の事です。入学したての頃は1人もいなかった友人がオリエンテーションの時に集団生活をする中で個性あふれる友人がたくさんできました。その友人達を大切にして、辛い時には励まし合い、怒った時は冷静に話し合い、間違っていた時には素直に誤れるような人間関係にしていきたいです。でも時にはライバルのような存在としてお互いに伸ばし合えるようになりたいです。

そして勉強にも力を入れていきたいと思っています。寮での自習時間の1時間半はずっと集中して勉強するくせを身に付けたいと思っています。授業中では大事な所を聞き逃さずに集中した態度で臨みたいと思っています。まずは前期中間テストで赤点をとらないという目標を立てて楽しみながら勉強できるようにになりたいです。分からない所はいろいろな人に質問して理解できるまでがんばって勉強に積極的にになりたいです。

弓削商船に入学して2週間が経つけれども、初めてする事がまだたくさんあるだろうと思っています。それがすごく不安だけど少しでもたくさんの事に積極的に行動して、もしそれが失敗という結果を出してしまっても次につなげられるよう努力していきたいと思っています。そして高校とはちがった雰囲気を楽しみながら生活していきたいと思っています。

将来自分の得意なものを活かせるような職に就いて、新しいことにチャレンジしていきたいと思っています。そのためにさまざまな種類の資格を取ってがんばりたいです。

担任の抱負

S1担任 横 田 臣 博

学校現場(高校)から離れ2年間のブランクを経て、昨年この高専に勤めることになりはや1年が過ぎました。何となく高専という学校がわかってきて、今年はいよいよ1年の担任ということです。正直なところ戸惑いはありますが、持前のおおざっぱな性格で何とか切抜けられるだろうと甘い見通しを持っています。教師になり20年目という節目でもあり、保護者と同じ年代という立場で、またほんの少し人間的に練れてきた教師としてクラスの学生といかにかかわれるのか、少し新鮮な気持ちでもあります。

私が担任としてできること、それは善のおしつけ?強制?くらいかも知れませんが。誰もが認める善行が身につけばそれで良いことだと思っています。担任としてせめてそのお手伝いができたらと考えている次第です。どうか1年よろしく願いたします。

M1担任 藤 井 清 治

電子機械工学科1年の学級運営方針は、ただ一つ、「基本的生活習慣を身につける」ことです。個人生活はもちろんのこと、どの団体、どの社会

においても、とても重要な事、当たり前の事を、自分の習慣として身につけてもらうことです。具体的に言いますと、次の3点です。

その1は、日常生活の中における「あいさつ・返事」です。これは、集団生活を送る上での基本中の基本だと思いますが、最近、この「あいさつ・返事」ができない学生が多くなっているように感じます。「おはようございます」「ありがとうございます／ございました」「失礼します／しました」「こんにちは」「さようなら」「はい／いいえ」「わかりません」等、基本的なあいさつができるようになることです。

その2は、生活リズムの確立です。まず、「早寝早起き」、10分でもいいから「毎日勉強」すること、さらに毎日「朝のショートホームルーム（SHR）」を1限目の前の8：15～8：30に実施したい。この「朝のSHR」は、最近注目をされている「朝の読書運動」を取り入れ、その10分間を「読書の時間」に当てたいと考えます。そして、少なくとも最初の半年間（前期）は、この「朝のSHR」を続けていきたいと思っています。最後に、「遅刻、欠課、欠席」のときは、すぐに理由とともに学校へ連絡すること、後でその届けを提出することを習慣づけることです。

その3は、「4S運動」の徹底です。「4S運動」とは、今年の学校全体としての方針で、「整理、整頓、清潔、清掃」のことです。教室でゴミを見かけたらすすんでゴミ箱にいれること、週に一度の大掃除はもちろん、毎日の教室の掃除も4～5人で教室を清潔に保つこと等、自分の周りの環境を清潔にすることを習慣付けることを目標にします。

以上の3点を中心に、「基本的生活習慣を身につける」ことを目指したいと思いますので、何卒、御協力のほど、宜しくお願い致します。

I 1 担任 野 口 隆

入学式から1ヶ月以上が過ぎ、クラスの多くの学生から当初の緊張した面持ちが消えつつあります。本校での学校生活にも慣れつつあるのだと安心すると同時に、彼らが本校での学校生活の自由と解放感に自分自身を甘やかすことなく、きちんと自己管理のできる自立した学生に育てて欲しいとも思います。

高等専門学校の特徴としてまず第一に思い浮かぶのは、5年間一環教育ということではないかと思うのですが、これは入学から卒業までの5年間で、ほぼ同じクラスメイトと過ごすことになるということでもあります。したがって、これからの5年間の本校での学生生活をそれぞれの学生にとって有意義なものにできるように、この最初の1年間に、クラスとしての基本的な方向づけを行っておくことが重要だと考えます。

具体的には、それぞれの学生が、遅刻・欠課をなくすように健康管理に留意すること、授業中に私語・居眠りなどをしないこと、教室の清掃を徹底し美化に努めることといった、きわめて基本的な生活と学習の両面での規律を確立しておく必要があります。また、クラスの中で学生たちがお互

いを知り、お互いの共通点や相違点を認めあえるような機会をつくり、指導していくことも大切です。

本年度は、「開かれた明るい環境をめざして」というスローガンのもとで、「あいさつ」と「校内美化」に、学校全体として取り組んでいます。まず自分たちの教室が「開かれた明るい環境」となるよう、学生と一緒に頑張っていきたいと思っています。

クラブ活動状況

【第22回四国地区高等専門学校駅伝大会】

期 日 平成13年2月3日(土)・4日(日)
場 所 高知工業高等専門学校
成 績 3位 1時間46分58秒

【第44回弓削町駅伝大会】

期 日 平成13年2月11日(日)
場 所 弓削町
成 績 高校・一般の部
優勝 1時間24分59秒

【平成13年度四国地区高専春季テニス大会】

期 日 平成13年3月27日(火)～29日(木)
場 所 高知県立春野運動公園テニスコート
成 績 団体戦 男子 3位
個人戦
男子シングルス
優 勝 M 4 村上 謙介
ダブルス
優 勝 M 4 村上 謙介
I 4 中本 翔
準優勝 M 4 大石 雄三
M 4 山本 昇
女子シングルス
優 勝 I 3 古江 綾子
準優勝 I 3 尼子 順子
ダブルス
優 勝 I 3 古江 綾子
I 3 尼子 順子

【因島オープンテニス大会】

期 日 平成13年4月22日(日)
場 所 因島運動公園テニスコート
成 績 男子C級ダブルス
優 勝 I 5 大石 雄三
I 5 山村 昇
女子A B級ダブルス
優 勝 I 4 古江 綾子
I 4 尼子 順子

【瀬戸田サンセットビーチテニス大会】

期 日 平成13年5月27日(日)
場 所 サンセットビーチテニスコート
成 績 女子B級 優勝 I 4 尼子 順子
I 4 古江 綾子

愛媛県スポーツ賞

全国大会準優勝ということで、弓削商船、弓削町にとって初めての県からの表彰を知事からいただきました。

I 4 古 江 綾 子

スポーツ賞を頂いて、運動とは無縁だと思っていた私は、ただただ驚いているばかりです。

私はテニスが大好きですが、1、2年の頃のような新鮮な気持ちが徐々に薄れていくのを感じたり、進歩していないと思うようになったりして不安になったこともありましたが、3年間テニスをしてきて、頑張れば必ず結果はついてくると思えるようになりました。

このような素晴らしい賞を頂くことができたのも、私達が試合に勝つとまるで自分のことのように喜んで下さる益崎教官、クラブの仲間や友達のお陰だと思っています。そして、自分の好きなことをさせてくれる家族に感謝しています。また今年も、こんがり小麦色の肌になりながら、全国大会目指して頑張ります。



平成13年度 前期級長・副級長一覧

クラス・学年	級 長	副 級 長
商 船 学 科 1 年	久保 岳人	木村 竜馬
電子機械工学科1年	小村 太郎	木下つる代
情 報 工 学 科 1 年	澤村 智也	山本衣里佳
商 船 学 科 2 年	岡 直樹	桑原 由典
電子機械工学科2年	兼田 一範	山根 恵司
情 報 工 学 科 2 年	馬越 輝知	井出由美子
商 船 学 科 3 年	山本 航平	藤原 亨
電子機械工学科3年	岡野 耕士	竹村爵友輝
情 報 工 学 科 3 年	清水 湧	白石 秀忠
商 船 学 科 4 年	川原 義裕	浜咲 昭雄
電子機械工学科4年	大出 真平	古本 悠一
情 報 工 学 科 4 年	山田 修平	大黒 夏美
商 船 学 科 5 年	谷本 光	馬越 則好
電子機械工学科5年	村上 譲介	村上 智晴
情 報 工 学 科 5 年	元森 龍太	藤澤 英雄

平成12年度資格試験等合格者

二級海技士及び一級海技士資格のうちの筆記試験

1 級

S 5 児玉 賢志, 小西 宏幸

S 4 柏原 薫

2 級

S 5 大平 輪清, 丹下 寛大, 野間 裕次

S 4 柏原 薫, 金子 大輔

特殊無線技士

第1級海上

S 5 神野 功介, 中村 英毅

S 3 浜咲 昭雄, 原田 翔也, 山下 洋祐

S 2 中山 真澄, 原田 修平, 山口 慎吾

S 1 大畑 安司, 岡 直樹

第2級海上

S 3 浜咲 昭雄

S 2 村上 知也

小型船舶操縦士

1 級

M 5 大窪 利信, 田内 孝典

S 4 柏原 薫, 田頭 樹, 立林 磯一

箱崎 純一, 藤井 雄紀, 脇坂 幸造

I 4 清水 陽子, 松浦 志保, 眞鍋 勇志

S 3 猪塚 高正, 木床 聡, 財前 正美

高垣隆太郎, 徳永 順, 西谷 勇二

花井 智昭, 原田 翔也, 松本 大輔

情報処理技術者試験

一種 I 4 村上 弘光

二種 I 4 郷原 慎也

ワープロ技能検定試験

2 級

I 4 阿部 幸恵, 郷原 慎也

I 3 宮市 友紀

3 級

I 4 清水 陽子, 松浦 志保

M 2 岸 輝, 東 孝樹

I 2 越智 仁美, 新田 征香

工業英語技能検定試験

3 級

I 4 中本 翔, ファルウィズ

I 2 西岡 勇介

4 級

S 2 中山 真澄

M 2 岡野 耕士

I 1 井手由美子, 井原 知美, 大賀 亜衣
岡野かおり, 川田 智章, 田名後 翔
谷 加奈子, 野間 悠助, 長谷川将司
古川 輝, 村上あかり, 村上 明穂
村上 直美, 八原 望

パーソナルコンピュータ利用者認定試験

3 級

I 4 香川 仁美, 清水 陽子, 林 浩二
村上 貴康

4 級

I 2 大野 萌, 越智 留美, 小林 美保
山根美円子

日本漢字能力検定試験

2 級

M 4 松井 星子, 村上 謙介

準 2 級

I 4 阿部 幸恵, 岡野 宏美, 岡本 美波
藤澤 英雄, 眞鍋 勇志, 山岡 準
M 2 大道 寛和, 東 孝樹, 松浦 克俊
I 2 岡野 和紀, 岡野 哲子, 越智 留美
砂川 香奈, 津田 智絵, 西岡 勇介
新田 征香, 宮川 弥生, 村上 理沙
山根美円子

M 1 今岡 由佳, 柏原 正樹, 柴田 光

I 1 澤田 章太, 中西 美陽, 野口登士行
藤井 真美, 古川 輝, 八原 望

3 級

I 1 井原 知美, 馬越 輝知, 小沢 知代
川田 智章, 白須 文野, 田坂 由貴
谷 加奈子, 西原 裕子, 長谷川将司
藤本 進矢, 村上 知子, 宮森 友美
宮脇 芽依, 森濱 千絵

春休み中の

キャンパスクリーン

本校の校舎内は、一部の学生によるポイ捨てガムやこぼしたジュース跡が、教室やローカ、階段に最近目立ってきました。

そこで、新年度から気持ち良い環境の下で勉学を開始する目的で、3月23日(金)と27日(火)の両日、学生及び教職員有志が集まり、主として一般科目棟階段とローカ、及び商船棟ローカの清掃を行いました。

参加者の延べ人数は40名で、内訳は学生17名、教官20名、事務官3名の計40名でした。

階段については、家庭用洗剤を撒き棒ずりを行った後、きれいに水洗浄をし、コンクリートのオープンローカについては、化学薬品液をガムにかけ、溶解後、金ブラシでこすり取りました。作業時間は、両日とも2時間程度でありましたが、全員自分たちの学園をきれいにしようとの熱意で、一生懸命作業に打ち込みました。そのおかげで、以前よりはるかにきれいな状態に復帰しました。

しかし、薬品の匂いに困惑したり、コンクリートに密着したガムの撤去に労力を費やし、作業は容易なものでないことを参加者一同痛感しました。ごく一部の心無い学生の行ったちょっとした行動が、多くの人々に迷惑をかけることをぜひとも知って欲しいと思います。今回の奉仕活動に賛同し、参加していただいた皆様に心から厚く御礼申し上げます。



新任教官紹介

高 木 一 二

所属学科 商船学科
担当教科 船体運動力学，水力学，英語購読，海洋環境論
最終学歴 神戸商船大学 航海学科
趣 味 スポーツ，読書，映画鑑賞

既に会社勤務32年を終了，自分ながら長い気がします。しかしその間，乗務勤務と陸上勤務の割合は6：4で，乗船期間の後半になると混乗船が多く，日本には寄らない船もありました。陸上の期間も自社勤務は半分であとは他社出向でした。代理店，第三セクター，フェリー会社等，中には創立前から解散後まで，というもあり，その時々で面白いことも，苦労したこともありました。

お陰様で引越しと自炊には大分なれました。

弓削島に来て，学生の皆さんにとっては最適の勉強の場であると感じています。ここで基礎知識をしっかりと身につけていけば，怖いものはあまりないと思います。私も，今一度，皆さんと一緒に勉強し，商船についての実務知識と共に技術の伝承（言い方が古いナー！）をしていけたら，と考えております。

最後になりましたが，何分にも会社勤めが長かったので，諸先生，事務の方々には，ご面倒をおかけする事も多いかと存じますが，都度ご指導頂きたく宜しくお願いいたします。

新 留 学 生 紹 介

I 3 リンドガ・ムハマド・アリフィン

私はインドネシアのジャカルタから来ました。ジャカルタは大きい町で，インドネシアの首都です。人口が千万人以上ぐらいで，色々な問題があります。犯罪や交通問題があります。だが，私がこの町を誇りと思っているのは近所の親しい関係であるからです。

私は音楽が好きで，よくポップスとクラッシ



クの音楽を聞きます。ギターもひけますが，まだ下手です。

弓削はいいかんきょうに恵まれて静かな町です。勉強のためにいい所だと思います。それに，人も優しいです。ある日，知らないおばあさんに「留学生でしょう。勉強頑張ってくださいね！」と言われて本当に感動しました。

弓削は面白かったことがたくさんあります。簡単に言えば授業以外のことが面白いと思います。

2 日間のスキー

I 4 ホサイン・モハマド・ファルク

スキーを得意とする何人かの先生方が，留学生とチューター達を連れて県民の森スキー場へいってきました。行く日には雨が降っていましたが山の方では雪でした。皆久しぶりに雪を見たので学生達はもちろん，先生達もすぐにスキーをやりたい気持で一杯だったでしょう。

だがスキーとは簡単に楽しめるスポーツではないから，初めての人は基本を勉強なくてはならない。楽しむといえば，転んだり，雪に触ったりすることこそが最高の楽しみではないのか。もちろんうまく滑れたらもっといいけど。ここで一つ考えましょう。スキーがうまくなっても，そんな大きなスキー場で一人で滑るとしたら皆さんどんな気分ですか。おそらく望ましくない気分でしょう。複雑ですね。それで友が大事なのかスキーが大事なのか？両方，ピンポン！

本校の留学生達のほとんどが雪のない国から来ましたので，滑り方を最初から教えてもらうことになりました。だがチューター達は初めの日からかなりの急斜面を滑り降りました。これは雪のある国とない国の違いともいえます。

2日目になって見ると留学生達が滑べる方向をうまくコントロールできるようになっており，しかも急斜面も降りれるようになっていました。人に教えてもらうと上達がおどろくほど速いことを改めて分かりました。当たり前だけど。

何しろこの2日間のスキーは忘れないでしょう。特に暑い国の人にね。



創基百周年記念行事 国際交流 —韓国海洋大学校親善訪問—

平成13年4月30日～5月5日、森田校長を団長とする代表総勢46名（学生20名、教職員14名、乗組員12名）は、練習船「弓削丸」を使用して釜山にある韓国海洋大学校を親善訪問しました。これは、本校創設百周年記念事業の一貫として行われたもので、平成7年8月に続く2度目の訪問でした。前回は学術交流が主でしたが、今回は学生交流が主目的でありました。学生数約7000人の韓国海洋大学校の中の海事大学（日本の学部に対応する）学生との間で、スポーツ及び文化交流、学校紹介、各種展示などが実施され、また夕から夜にかけては、釜山市内や弓削丸船内でのグループ交流が行われました。非常に短期間ではありましたが、全員楽しくかつ和やかなムードでの親善交流が行われ、多大な成果を収めることができました。

今回の親善訪問の日程は以下の通りでした。

- 4月30日(月)弓削商船高等学校棧橋出航
- 5月1日(火)韓国海洋大学校専用岸壁着
交流打ち合わせ
- 5月2日(水)スポーツ交流（ソフトバレーボール）
文化交流、展示
（茶会、囲碁、ロボット展示）
（プログラム展示、学校紹介）
- 5月3日(木)慶州見学



学生交流会 - 記念品交換 -

5月4日(金)韓国海洋大学校専用岸壁出航

5月5日(土)弓削商船高等学校棧橋着

参加学生

- S 5 石川 雅孝，織部 弘
- I 5 元森 龍太
- S 4 上井 博明，徳永 順，松本 大輔
村上 伸一
- M 4 赤瀬 基矩，砂川 智俊，古本 悠一
- I 4 大出 幸子，宮市 友紀，宮地 里佳
- S 3 中山 真澄
- M 3 岸 輝，根木 心也
- I 3 村上 理沙
- S 2 岡 直樹
- M 2 豊田 真之
- I 2 八原 望

韓国研修を終えて

S 4 上 井 博 明

今回の韓国海洋大学との交流会に参加し、自分は何を期待し、何を求めているのだろうか。確かに韓国に着く前まではいろいろと考え、自分なりに求める何かを見つけていたのだが、そんなものは弓削丸が着岸し、向こうの学生が出迎えてくれ、乗船して来たときに全て忘れさせてくれた。そのおかげで、何も考えず、いつもの自分に近い態度で接することが出来た。韓国に到着した日から学生交流が始まり、釜山市内を見学・案内してもらった。私が何に一番驚きを受けたかという点、彼らは自分の学校の制服に誇りを持ち、制服着用時には他人の前では恥ずかしい姿を見せてはならないと考えている事で、日本の学生が普通に行なっている「買い食い」等は絶対やらないのだと言う。この時私は、自分が通っている学校をそんなに誇れるかという事、こういってはなんだが、韓国海洋大学程誇らしげに出来ないなと感じずにいらなか



った。

私は交流会の自己紹介の時に「言葉には多少壁があるが、スポーツに壁は無い。」と言ったが実際、スポーツ交流は、同じルールの下で、互いに全力を出しあい、珍プレー、好プレーも続出し、会場全体が一つになり、大いに盛り上がった。結果の方も辛くも勝利を手にする事が出来た。日本に帰国する為に出港する時間がこちらの都合で1時間早くなったが、向こうの学生は授業の合間の時間に走って見送りに来てくれ、校章等の交換を行い、見えなくなるまで見送ってくれた。この光景に接して、自分が今回の交流会で得ようとしたものを手にすることができたと実感した。ただ、スケジュールの中で残念なこともあった。その最たるものが慶州見学である。確かに自由時間を増やすために見学時間を削るという理屈は理解できるが、本館と別館2つある博物館を20分程度で見学しようというのは少々無理があったのではないかと。

あれこれ思いはめぐるが今回の交流会はひじょうに良かったと心底思っている。最後になるが、やはりこれから先、国際化を見据えると、英語力が必要だという事が身をもってわかった気がした。

M 4 赤 瀬 基 矩

私は韓国へ訪問するにあたってぜひとも交流を成功させたかった。行きの船に乗っている間は海が荒れ、そのことを考えることが出来なかった。しかし、韓国の港に着き、迎えにきていた韓国の学生を見て、一気に緊張感が高まった。そして、初めて外国へ行き、外国の人と話すということに、「簡単に日本人並みに話せるだろう」と思っていた自分に自信がなくなった。そのような状態の中、弓削丸の中で韓国の学生との交流会が始まった。その時は二言三言しか話せなかったが、それ



で気が楽になった。その日のうちにスケジュールにはなかったが、韓国の学生が釜山市内を案内してくれることになり、その時から交流が深められ、次の日、その次の日と、言葉を交わすことが多くなった。韓国の学生は紳士でユーモアがあり、良い友達になれたと思う。

1日目、韓国の学生が案内してくれたこともあり、釜山市内を満喫できた。釜山で一番印象に残っている所は、国際市場、チャガルチ市場などもすごかったが、釜山タワーだ。釜山タワーから見た市内は日本の大阪のような感じで、田舎っ子の私にはとても印象深いものであった。

4日目、私達は釜山市内行くことの方が楽しく、そのことをわかってくれていた教官方が慶州の見学を短くしてくれたこともあり、慶州は多くの印象を残すことが出来なかった。しかし、新羅の国があった時代の遺物を多く見ることができ、教科書では勉強できないことをこの目で見る事ができ、とてもいい勉強になった。

他に印象に残っていると言えば、やはり食べ物だ。ビビンバ、焼肉、冷麺、そしてどこへ食べに行っても付いてくるキムチ。焼肉以外はほとんど辛いものばかりだった。韓国の人は毎日このような辛い物ばかり食べているのかと思うと、食生活自体が日本とは違うのだなと思った。また韓国の人たちはスリムな人が多いので、それもその食生活の影響なのだろうかとも思った。日本食を見直してみようという気になった。

私は今回の訪問で英語の大切さ、人間関係、食文化、海のきびしさ、船酔いの辛さなど色々な事を学んだ。このことは私にとってとても貴重な経験となった。

今後の日程

10月26日(金) 海王丸一般公開(学生)

因島～上弓削沖停泊

10月27日(土) 海王丸一般公開(一般)

11月2日(金) 創基百周年記念式典

11月17日(土) 創基百周年記念講演会

作詞家「星野哲郎氏」



愛媛県高等学校総合体育大会



福利施設（白雲館）完成



韓国海洋大学校学生交流 - 茶会 -